

136 寺前城跡
137 村雨城跡

甲南町新治寺小字池ノ谷・寺前城
甲南町新治寺小字池ノ谷・寺前城・水谷

寺前城と村雨城は、甲南町新治のうち、新宮上野集落の南に隣接してある。いずれも国指定史跡。

寺前城は南から北にのびる丘陵の先端部に位置するが、この丘陵のさらに東側に位置する丘陵の先端には、新宮城・新宮支城があり、周囲には城館が密集して分布している。さらにいずれもが、寺前城と村雨城、新宮城と新宮支城という二つの城が並立するタイプとして築かれていることは注目される。



図304 寺前城跡・村雨城跡位置図

丘陵の最先端部に構えられている城が寺前城である。基本的なプランは方形複郭で、主郭となる曲輪Ⅰは、東西約三〇メートル、南北約四四メートルを測る。その四方には土塁がめぐらされており、現在北・西・南面に残されている。特に南辺は背面からの攻撃に備えて一段と高い土塁が設けられている。



写285 西からみる寺前城跡と村雨城跡

曲輪の東面には土塁がないが、地元での開き取りによると今から六〇年ほど前の開墾で取り壊したとのことで、当初は四方に土塁がめぐらされていたようである。また、曲輪Ⅰの東側一段下に構えられた曲輪Ⅱは、後世に畑地として開墾されたように整地されているが、副郭的な曲輪であったことは間違いない。

南側背面には村雨城からのびる尾根上に巨大な堀切aが設けられ、背面を防御している。さらに曲輪Ⅰの南側土塁の外方に堀切bを構え、二重堀切としている。特に堀切bは堀外方に土塁をめぐらせており、堀切と同時に塹壕としての機能も有していたと考えられる。

寺前城で最も注目されるのが虎口構造の巧みさである。曲輪Ⅰの北辺土塁のほぼ中央で開口しているのが虎口cである。虎口の外方は土橋dがスロープして堀切に架けられている。さらにその外方にはもう一重の堀切eがある。この堀切は城道としても利用されており、城外側とは直角に屈曲して城外に開口している。



図305 寺前城跡・村雨城跡概要図

(中井 均作図)